浦塩見拾遺

特別
イ 4
3163
35 (2)

貴
14
3163
35(2)

宮内省図書寮

浦乃志ほ貝拾遺秋歌

立秋

あき風ぬけたる日よりの如ふかの野乃下草おとしるしや

初秋天

秋ちかき雲ぬけはるる白雲にたなびきそめし月乃うけ

初秋雲

はるかなる秋よりかけしるしとて雲の形ひくしく添しそらの山

夕立ぬけ岩くつ色く秋ちかきたなびくしるし雲の色ぶ

初秋朝

あさ風乃うすぎぬ乃帯ぬ添しけれまつのをりかるのこぼ

初秋夜

先者く先ちの契るん夕やこ大海乃秋の初色

初秋山

もみぢ葉の秋のみどりの如くハ紅葉からぬ大日嶽のやま

初秋露

白玉とあれ玉ぬきをつらぬきて露のさ原ぞしらし時雨ぞ秋ハあるけん

夜ちぬまをみ吉野ハ志ゝ露ぞ秋のうめハ香ぞ多りける

橋乃言葉尚雅秋風

ふるゝ人ぞふちゝとうに紅葉の橋のゑ乃あきのちゝ也

早原刻

みちゝのせゝまつふ乃はぢ社ぬ此てゝ麻のゆゝて

はゝ長ハ長るぼくゝゝりよりゝ一筋のすゝしはゝ

冥土秋風

乳乃手也うゝたゝぬと思ひけり世を秋を也ゝ心ゝふん

冥土秋来

人ゝ度ぬやゝとゝまゝる秋ぬれを家ゝゝ涙

待七夕

たゝはゝれ心を世ゝたゝ秋ゝ乃ゝ乃ゝうゝれあゝ

夜刃乃書ゝゝゝ乃秋風ハ光ゝ乃ゝに入たゝ乃ゝぬる

七夕髪

髪ゝゝ乃ゝ乃ゝとゝかゝゝ髪し星合の夜

七夕別

機乃ぼれ乃秋の風ゝ

七夕後朝

ゝかゝゝゝゝ家乃髪増ゝん

天つひしふるきにちて雲を形り面影の如くに宮のうち
秋乃雲おなじあしらはなるを秋と名づけさやけ乃風るらん

七夕雲

天乃川うるる雲れちらし風乃面ハふく数日乃影き
形もて遠やしあらん天川実きさ雲乃色に礼る

七夕雨

かきくらに雲の上なる天の川面ハふるとも名ハまさらし

七夕水

心なく風る水乃天乃川星礼ひらう乃うら げるうな

七夕糸

交ひきにいるきりつる糸ハふ乃手乃ものあらん者を

七夕衣

沖乃ゑを ゑるとなつるきをあるハ筆ち乃書とあらん

七夕笛

松ゑ乃一ふと吹なる笛を招くせ乃ゑ乃ゑ乃ゑらん

七夕鳥

白雲乃橋ひるせゑは天乃川みとある雲乃ゑゑこそせめ

七夕蝶

雲乃ふとかゑハかけふん蝶乃糸きるしをるむ蝶とハ礼

七夕馬

天の原蝶ら乃ゑくひこ引に鞭ちかゑ駒せきまし

七夕硯

織人ハ小硯乃をとう乃ゑ言やを乃る乃宮乃を面

七夕船

久かたの月の桂の木の葉をもて久しく乃天の川原を渡る舟人

七夕祝

その門常八へたる妹とせゝ所き道をたゝしかとの

海道七夕

ひろみ乃前のうるめ鰯ハあるとつほ賣るゝ乃毛多ん

霧中七夕

色遠き梢ゆきぬやきよゝ柳機ゝあゝ伊ゝ織をまし

七夕あゝ人乃名ひ制ゝ早ゝ

ゆしろき人乃ゝれをひたゝ星乃ゝ乃ゝ乃ゝ

七種の数まにまに菊のむすびをとりあつめたる花をみるに

菊花交色

いろいろよりあはせし色乃ねの野に集まる聖人系

雪百合

ひかり行もてるぬ新雪よりあらそふ白へ〳〵きく花

籬下菊花

夕暮はさして白い野花と墻乃小菊もさかりなりけり

月照菊花

みう月乃ひかりをもうつしたる白へ〳〵きく乃花

面中菊花

秋のよもいみれくうつろひぬ花乃えくぼふきてはな

槿花

ちっ乃秋のちきも時ハみりのを秋をひろひ乃新ほ乃系

はれさはいつも増ると野乃花のえくぼ乃系

籬槿

新日影さ数ま垣をたそえ色さをる面さうの乃ぼ

懸家槿

朝ふ乃ひの出たらいまみよ懸ってくりにけるう乃

萩

やれきをかきるを梁を萩のほ乃茂りうこめる由人の孫に

萩風

をさ乃系ぶうふし年ち秋を乃かふ垣のとりまる乃

曉萩風

萩のそ花さめをそそ少ゆるれ思ひる秋乃を中やうん

萩乃葉乃散まく故に心ひさんに思ふれ君のねさめを

夕萩

夕作はたゝ乃葉ふるまむきを言せぬ人の秋風乃音

迫萩

ふるさと萩乃末葉ふるさゝやかに咲まつる園のうち

川辺萩

あむ風乃かふ所へ乃萩のはゝそまに穂ゝ出るけ

渡萩

かるゝてまゝうんとも萩乃紫ハ独乃濃ゝ生義ん

少萩

あさ風乃ふくとゝ見ぬ夕露ゝお乃れとうゝ色のをゝ原

きゝまゝ乃萩乃枯るつゝく秋風乃ゝ吹ゝ小野増ゝ

病萩似る

秋乃乱るゝき野乃ゝまゝ乃ゝ病ゝ萩ゝ似ゝ

雪萩

きゝ乃ゝ乃ゝ乃

はつ紅くさめにゆらぬ林萩をかりあひけるとなのあ

萩映水

かきのうゑ垣ねのあふぎはかくもさく新宮林萩乃あ

萩花深水

あかやさは池乃あきはのうきなまよりもとあふ秋萩乃色

薄

ひつ穂乃いろもはなさくもすき新まうとよそにうゑ

藤赤出穂

きくきくゆさかるいなぬ社風を新よそもなりきあるい

藤出穂

秋名乃ゆ[illegible]ゆ[illegible]乃志のさゑ見ぬ[illegible]ほ[illegible]

藤遠風

乃の影まめくにうるおあ乃ハ藤乃色もう稀しうゑ

遠藤

はまぎの花乃上乃の花すきおせてうる波うえる

夕はをす浪へ乃藤乃色けハやそ赤穂のさゑ見てけり

色乃へに人なまなきてゑ藤おのう秋花えやハそむ歌

行遠藤

おすしうきて萩宮れ藤原かもさめすゑてえゆけ

いとは花くゆるあしは色乃へのすゑうえまるうり花

藤好往返

笛ゑくそれいんとすきハ花すきうへ藤きあしてたうへ乃り

苅萱

みれたるのへ乃うまやゆうくあふ若乃色なせん

野菜

これ野べの菱たがまこも　吹けしもゆく神の風そなる

雨後菜

ぬれ濡れすそこにてんとつるハ　ものを常なる塔もせり

如意花

むらいろはむさるる葉ぼのをもとおしうるやなのつのとてるたん

あきまにハ見るもみもつる　拾ふ　庭の雪むの雪

庭如意花

雪霜よ拾しものう　如意花をるぬかとて心おりるし

もとこ分へしやうのあるしやかざりけんむ花さを家ぞうるぬ

如意花は風

雪の如し　風よもあひく如意ひみをもあとのひらる孔

菊風

菊はえ乃かりに　ちりはきぬ乃　風乃ふ　西歌　松を　長　好　ふ　ふ　ふ

吹ふり　ふ　吹　紫乃　ま　ま　菊の　はよ　ハ　惜　ふ　ふ　乃　秋の　初　風

吹く　色に　ふ　ふ　ふ　せ　ハ　ふ　ふ　ふ　ふ　同し　枯の　ま　紫　ふ　ましし

月

月こひさやけ　ふ　ふ　ふ　ふ

明のるかの本の月紅ハ野山の森ゑん色紅葉ちけ程
山さは嚴ちみ谷の色紅ハ月ゑ行て すまのうら
かきくもり時の雲ゑ時も時雨の降ハ月新すて
照りの光を拂とさを水ハ天の川も紅葉へを所
ちる月ハ宿のちゑめよ加紅ゑ紅葉まうハさちゑ色
ちゑ紅ハ月ハ明けも多よむ すふ多の月ゑに こ さち紅
ゆゑ紅ちゑ月ゑ月ゑ人ゑ多ゑ紅のけ

待月

照月をまち乃信ゑ出しゑ高ゑ ゑゑ月ゑ ゑ

未出月

山のゑ紅ゑ月ゑ時ハ紅ゑ月乃ゑゑゑ ケ月

月出山

立田山出ゑ月乃ゑゑ紅ハ城ゑ人ゑ紅ゑ ケ月

山月初冪

ゑ乃人ゑ月ゑ世ゑゑ乃山乃ゑ出る ゑ月乃ケ紅

紅ハ人ゑ月ゑ山のゑ月せハ月ゑ月の影ゑ月

曉出月

ゑ月ゑ月のたゑゑ山乃ゑ出る 柳ひ色ゑ月の月

横雲に紅ひ紅ゑ紅ゑ月ゑ月ゑ月ゑ月

曉月入窓

まとゑ月ゑ月の月の影ゑ月ゑ月ゑ月ゑ月

源秋月

山乃ゑを月ゑ出る月影ゑ月ゑ月ゑ月ゑ月

夜陰月

[illegible]

對月待客

[illegible]

雲[illegible]

殘月就寒

[illegible]

社頃月

[illegible]

七月十四夜月のきよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江月

[illegible]

河月

堀江河むらし[illegible]

秋の[illegible]

池上月

[illegible]

漁月

山深み[illegible]

海人釣月

[illegible]

漁夫拾月

指ろうさし歌ぬし八ゑふもりをのせる海士の袖

月似古

玉敷月はうけハむし多ゆ月ゆ神の入ゑ

水仙月

きれつまて多さ多し淀あもりてもやさ一の初るん

月照菓

月新乃さすん多ハ又し稀多籠乃きぬ乃ろ乃やけ又

口寺程ハ多うゑ乃ふきれ花乃めるとしの月乃光を

月多露

ゑれ月乃光又むきゆしう多ハ乃ろん落も春ゑ乃るん

又月思ひ人

春乃る新乃るゑ乃しの乃ゑり乃浮もひ乃ゆむけん

月多仲風

多乃の仲を秋色乃ゑまに乃れあり籠つきゑ乃やけき

月前雲

雲多乃る新に乃く天乃ゆ乃ゑ多ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

月前水

ほの乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

月前菓

さ新ゆ乃ゑ多ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

月前鶯

ゆ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

月多雲

山乃ゑ多ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

月前船

あきのてらまくらうつる月乃影やつゝき侍ん

中秋のころ中郡某駿河池乃新宅ゝ移り

ゝ頃ゝ侍ゝいひもしたゝて

秋の夜月乃影乃引うつるちにまんともん

三笠乃天おゝ雲まて月をみゝ

振さけ玉乃ひかりとみるゝ天の井の秋の夜つき

井上某ゝ山乃清景物まて月をゝて

山乃夜なを文きよ紀家屋ゝ移ゝて月のかけをゝる乃

網島ゝて月を海ゝ乃時乃乃を河の面ゝ

ゝりゆゝあひきゝる形しゝ仏

山崎乃舟のゝゝ出うゝ出ゝゝゝ月の影ゝゝ

あゝおろゝひかゝゝゝぬ月乃影ゝ

あ頃乃池ゝ移ゝ

いゝゝ水乃ゝゝゝゝゝ形八先れゝ月の影ゝ

八月十七日 三井某ゝ月見ゝ文ゝゝゝて

出ゝと雲ゝ月八ゝゝゝゝゝ乃八月を出て

ゝのおゝに

おゝのそれ一ゝ八ゝゝゝゝゝゝ月八みゝへゝる

今れ秋門乃大人ゝゝゝゝゝゝ錢ゝ

東海月ゝゝ乃ゝを大ゝいひあゝる

みやこゝゝ乃出乃濱のゝ月影ゝやそゝゝゝゝゝゝん

十六ゝ乃船ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃ゝあひぬゝゝゝゝゝゝゝ人乃ゝ舟の中ゝ

月よりはさきなるとは思ひ[illegible]ハ[illegible]うえ[illegible]ふかう[illegible]ふる

月ゆゑあまさえせらる人は

つきハよ[illegible]ふるはるる秋[illegible]れを[illegible]のあ[illegible]ふ[illegible]をみる[illegible]

九月十三宮の[illegible]を人[illegible]

信[illegible]れたるの市にゝ人[illegible]ゝ[illegible]やいまをるらん

弱意

[illegible]坂の山の秋をもよ[illegible]ハ[illegible]く弱の[illegible]

秋夕

[illegible]田つくるの[illegible]ハ[illegible]

[illegible]屋秋夕

[illegible]赤[illegible]の[illegible]れ[illegible]

[illegible]

さを[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

康文百花

一生をかけて書こうとしかいろいろ心もうごきうん
さくをみてくるわ〜〜つくんあるきて〜〜〜

山家秋

[illegible]

松風

[illegible]

くつもむし

秋の[illegible]

丁

おとは山[illegible]

初丁

[illegible]

[illegible]

丁初東

秋風[illegible]

初雲丁

[illegible]

初丁連雲

白雲[illegible]

雲夏丁

月[illegible]

雲[illegible]

霧中丁

[illegible]

人[illegible]

丁佳風来

あきかぜのおとたの山おろしねこそ見ねの葉を吹るうる山
秋風の音をうつしてや乱るらんをちこちにすむ初雁のこえ
吹う拂ふ世の秋ふれハつるもみぢをてハきにけり
夏天空了
みるゝ毎に雁の翅やしをるらん夕雲ちてもむるそふる
をるをしし行やいつこ夕霧の立ゆる初雁の声
菊小了
ほるにたるうりぬと笑ハ初雁の文ゆと雁と雁の声ゆる
紅葉
紅葉の思ふ法さ思まとゆしてのまぬ酒ゆ思へるふ
紅葉ふ拂ふめ之せとも紅葉の苔の秋を拂へくも拂
山紅葉

紅日新負へ頼山ふ秋ふりの孫まに身白るきに紅葉
紅葉
ふ
ふ
ふ

紅葉のいろにそめなすりあるハちりまさるとまりこけん

紅葉淺

おりたる波のしらけを時雨とあやまるまで赤葉のいろの深さハうゑ

又ふきそえんとおもへハ紅葉のいろの深さハうゑ

尋紅葉

ふかく入る山の奥ハうすの色をかつくるめてこそ見れ

こゑ〳〵ふきたれしらの山に入まれまれまれハ

紅葉文松

きりをはるはるさかりの紅葉ハ秋のにしきなりけり

紅葉妙稼

おしこめくりくる小車乃みをとれる秋の山ゑ

紅葉誰乳

とさたにそしし紅葉さてしら紅ハ信しめて位人ゆゑ

紅葉眺水

紅葉のうけさへかくるうけ時雨ゆゑ塔ゆ山やけ

高砂の人のうたにみやるそ

戸ゆ一本の紅葉折るとてあく信とも紅葉ゆ

高雄の紅葉見んとてやらめしとはゆ

くもりとつ見るに世そは見るをそたのみとれ

梅尾紅葉

おりとそは人中とのをとの紅葉のちるを伊くあつたやん

菖掛松

つゆ〳〵林をは林と紅葉しるかるれ乃方紅葉を伊ん

雲落原

[illegible]の山下げの淺ちゝうゝゆゝなびき霧

月前霧

鳥むれやとに小雪ハおちゝめと月ゝ神ハゆれ傳ゝる

赤口霧

むゝれおおていゝん[illegible]の藪の霧ハかゝゝ月ゝ

霧

ゝの中ゆ人のあゝきの霧ゝ[illegible]れハゝゝゆゝ[illegible]ゝ[illegible]

淺霧

[illegible]のゝきの霧ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]

河霧

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

いそらんかとも〳〵秋の雲乃曙にお衣紙

搗衣姉美

まちまぬ人乃こゝろにわれ〳〵衣うつ〳〵和の美ゝ

月前搗衣

衣おゝ〳〵ゝ月乃ゝ乃ゝ乃ゝ

[illegible]

秋田

[illegible]

秋岳

[illegible]

秋山家

[illegible]

秋池

[illegible]

秋海

[illegible]

秋谷

[illegible]

秋熟

[illegible]

沢水略

[illegible]

原野略

[illegible]

江遠翁

[illegible]

雪中翁

[illegible]

秋雨のたえまをまちかねてせみのきこえにうつりかくるる

今宵廣田の社にあるまつ

ちりはてしひろさのいなば葉はのまをもとめて秋のみを

又秋風のあるのみ

爰にまをまを見田の稲はかりかくれて秋は来にけるなり

京より物へんとするは

りまに立つのうねり〳〵はつ穂をそなへて見れば秋の影

田家秋興

門田より里田も山田も見渡しく見ひろり穂の村をもるに

故崔つれもをとうん八来しねかりをさめるを小山田のぼ

山路秋

なをしらぬ雲のかをを紫も紅葉も紅葉も秋小山をみかりは

秋祇園

きめ祇のみをしるるもろ〳〵おろしの風をなげ

重陽宴

家ゐ〳〵山路のまき城折まくやをんまをうをぬ

菊初開

きくの花ををり〳〵白ふめりをれをれの代の雪やおもん

栽菊

うゑうゑ〳〵山路のの代八あ原をこと花ちハ久しき

代秋のなめをうゑしまくれもおのりおとせハたのうまに

丹波名田法師

水逆菊

大井川保津の水まをえ八紅葉山をく今紅葉

なをり水のうつきる寺菊皮なまもひとくもえこをる

山路菊

山路を皮袴とりゆめさくら花をしぬ世をそ身の白髮

荒籬菊

みるさくら世をも山さくらのれるまもいかむとはしきぬ

月前菊

おきそめ初て見つる五明の月よ白髮しきぬ乃花

對菊徐月

花ゆるまよりさくらもれ出きはなまつ花のひりくらう

孫は乾菓

ねるもかく所れハ人も杉の里ハ孫はしめんしき菓の色

菓花盛久

ちりもせぬ色もうつぬ菊のうるかけをうれぬ所ふるうら

菊交藤

うをとめて系をそうれ花すおうハ成程のハ乃しき菓

秋菓有佳色

うるるるるもめ程とあるさうあ彩る所れる志ら菓の色

稻穗就菓義

きれ花ゆるありにおうるせんくもておとろく谷の梅も所し

重巖細菓殊

仙人乃をうの世雪とゆうるみ切ゆるしるしきぬ乃花

石面菓花

大せうの山路の菓の山さんハ菓のあるもハ仏ゆり

聖護院の菓おゆ菊ゆをさ根ゆる寺そ

かうめの菓へる乃ゆもきめむうてハ毎のやうくう

暮秋雨

[illegible]

秋雨

[illegible]

暮秋

[illegible]

雨後暮秋

[illegible]

惜暮秋

[illegible]

[illegible]

惜丸[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浦盤夏拾遺冬歌

初冬

初しぐれ　ちるやもみぢの山きれ松のあしもとはるるあり

大ぞらは萩の葉もちりはてぬ　時雨をのこしさ冬八月

初冬暁

ちるあるのきえうせぬ　きぬぎぬのあけぬ　ゆふ

時雨

ゆふ時雨やどりつもれる紅葉ばの　ふるかぬるよりぬるるなりけり

かきくもり　いましぐれ　ふる　雨　ゆふ　の涙

朝時雨　十月九日紀氏影供

出ぬ　ゆふ　ぬ　ぬ　ぬ

[illegible]

嶺時雨

[illegible]

深山時雨

[illegible]

月雨時雨

[illegible]

松時雨

[illegible]

時雨催涼

[illegible]

寒草

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宣芦

はきをこく棚なし船をあらまそ　紅葉の芦ハ拍子よ急

宣松

松一本みたの高根よのこゝはは色乃こゝとゝれの蓑ん
をゝくし松まめ代乃山松よ白くも雪れ如ゝるけゝ系

宣樹交松

松ゝたゝたゝこゝおゝ雲田山こゝ雲ゝゝ色ハきたゝ
紅葉ハ色うをゝもこきよちはゝいよゝゝれいよの松山

蔦葉

紅の蔦も今代系宮代神前色の心よ雲色ゝゝ雲ゝ系
蔦ゝうゝよゝゝゝれゝ井乃ゝゝ人ゝゝれゝゝりよけゝ系
多ゝゝゝ久ゝゝゝゝゝ代池水乃色ゝし系ゝ紅葉系ゝ

月比色紅葉ゝ系ゝゝゝゝんたゝゝゝれ本ゝゝ系ゝ

蔦葉風　十月九日　紅氏影佐

蔦ゝゝゝゝ系ゝ神ゝゝ月ゝ系ハ風よゝ色ゝゝゝゝ
ゝし戔乃山の木ゝゝゝゝゝ都ゝゝゝゝゝ

蔦葉多

紅ゝゝ山ゝゝゝ紅ゝ系ゝゝゝ系ゝゝけ系

蔦葉満庭

雲ゝ色ゝ系ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ山ゝ

水辺蔦葉

新ゝゝゝゝゝゝ本ゝゝゝゝゝ山ゝ水

蔦葉松小

紅葉よゝゝ山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝ人ハゝゝけ

霧

[illegible]

何へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝霧

[illegible]

篠霧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いなう人[illegible]

冬霧

[illegible]

枯野霧

[illegible]

霧鴨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の[illegible]

氷

[illegible]

氷初結

氷告げ

氷満池水

氷閉流水

氷開激水

氷不解

氷消

氷解

氷

氷

氷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水雪

波のうへにうきくさたちよる水鳥はあらくにハしはまきちらす

閑水雪

本法のみ御のこれる書閑にはつゝ秋時の雨もしく程を

池雪

廣沢の池も世ゝ〜と水雪をまとはむとみるかすかなる式

水雪多

贄人のもちいけるねぶかの雨てやの雨ておつらん

天寒暗下水

廣沢のみなのまゝ雨つゝけ雨ハ仆ねとりて降るあ〜時

池雪

いとはやく雪もきはるもの〜きのなのうまくさ池ゝ形

芦間雪

あしのもの見ゆ中ゝ雪ハ〜と芦のうもはのうもはのうもはのうれ

冬月清

聊の山ゝ雪ゝ雪ゝ雪

[illegible]

[illegible]

年[illegible]

初雪

[illegible]

遠山初雪

[illegible]

[illegible]

岩上初雪

[illegible]

待初雪

[illegible]

[illegible]

侍雪

[illegible]

[illegible]

苅田雪

[illegible]

野雪

[illegible]

[illegible]

原雪

[illegible]

[illegible]

巖雪

[illegible]

山雪

夜乃あらしよ押りける雪の山のえだ風の強せる雪とうとみ歌

遠山雪

常よりうるわしとよ山乃松えだ雪のつもりけるかな

河雪

布さらしてつるしかけるれよかな義川の雪ハゆきるうらとせる

山家雪

白雪おりてこたなりぬる山さとハ見ぬきゆきを知人もなし

雪雪

雪ハ降ハ降て白ゆきのうらみ一ハ色をうらぬ

雪ハ降ハ降て白ゆきの園とれ乃つるかれる色

松雪

家居乃まちにうゑる雪とゆきを代とわけ行来

雪分のつるゆきひろたちる花ハ尾上乃雪ハ雪ハ

竹雪

雪乃降て竹乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ

ゆりつる雪おろしの竹乃さきの枝ゆり先ちひきる

檜原雪

ひろの檜よりる雪ハ大ぶえ乃ゆきに知ふる

雪朝達雪

ゆうぶ雪ハ雪山乃ゆ一ものと法師ゆ法師ゆ法師ゆ法師ゆ

雪乃月乃月乃月乃月乃月乃月乃月乃月乃月乃月

雪中獣

狩人乃ゆきの乃ゆきの乃ゆきの乃ゆきの乃ゆきの

雪中鳥

[illegible]

朝雪

[illegible]

夕雪

[illegible]

夜雪

[illegible]

用雪

[illegible]

[illegible]

獨鈴[illegible]雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霧

[illegible]

[illegible]

暁霧

[illegible]

聖霧

[illegible]

山家霧

[illegible]

竹霧

[illegible]

竹間霧

[illegible]

紫霧

[illegible]

霧似玉

[illegible]

炉火

[illegible]

炉辺宋詩

[illegible]

炉火懐旧

[illegible]

閑炉火

[illegible]

仏名

[illegible]

冬暁

[illegible]

冬夕

小栗栖[illegible]

冬雨

[illegible]

冬雪

[illegible]

冬夜

[illegible]

[illegible]

冬雪

[illegible]

田家冬

山さとはさりとて栄も絶えぬ冬の[illegible]

冬至

落葉小山寺に粗糸をくけるのわとはりをん

[illegible]

孤丁

[illegible]

細代

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細川殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雪のうちより咲いてゝ[illegible]梅のそのうち

白梅薫風

梅の色雪のうちにはさきゝかと風の白ひを入て来れり

庵白梅

こゝろあるゝ[illegible]ぬ[illegible]梅の初花咲そめふゝ

雪裏早梅

年[illegible]梅の初たをれたゝにはあとつけそ[illegible]

巣雪梅

はるめきて梅の白ひふ[illegible]

梅告春近

梅ゝ[illegible]ふる[illegible]

人のたゝ[illegible]白梅の古雪なりるとゝ

梅の花をたゝ咲るゝ梅の花をたゝ[illegible]

人は柳を[illegible]

[illegible]

巣雪

[illegible]年の[illegible]形[illegible]柳

一[illegible]はあゝて世を[illegible]花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歳暮雪深

ゆつるやはなまつしとなるまて降雪を見るとて八重のゆきに

除歌

よの中はよのつねなれとあつしのかくそとはさてうれ
しけれとあらふ世はかくれなくもしかるとて
とはなもしらぬ雪をなをしてはらのよ越しむとてのくれ
年はかたよりはひつる歌

世の事しげきもうしやいくとくさはいとそ年けん
後ちりぬるきむのとくうあてはつハもき愛語也けり

七十よあらんとしける年は美濃
越く年を惜むてろもあらはけりわの世はわる者を待とて